

# 平成 30 年度学校関係者評価委員会報告書

## 1. 目的

本校全般の運営について、学校関係者より意見を聴き学校運営について組織的、継続的な改善に取り組む。

## 2. 学校関係者評価委員

委員氏名	所属
高瀬 政夫	今市コミュニティセンター センター長
水谷 厚志	学校法人水谷学園 出雲北陵中学・高等学校 校長
秦 美恵子	公益社団法人 島根県看護協会 会長
太田 真英	一般社団法人 島根県理学療法士会 会長
福田 勇司	一般社団法人 島根県臨床工学技士会 会長
廣江 正幸	一般社団法人 山陰言語聴覚士協会 理事
荒木 繭 (欠席)	卒業生：看護学科 1 期生 (島根県立中央病院)

## 3. 委員会の実施

- 1) 日 時 平成 31 年 3 月 21 日(木) 13:00~14:30
- 2) 場 所 出雲医療看護専門学校 101 教室

## 4. 学校関係者評価結果

大項目	関係者からの意見	学校関係者評価結果
I. 教育理念・目的 育成人材像	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員は教育理念などを細部まで理解している者だけではないためか低い点数が出ている。</li><li>・全体的に、前回よりも評価が良くなっていると思う。産学連携・留学生対策等は低いままだが他の部分で上がっているように思える。</li><li>・留学生対応については本校はできていないが学園としては対応できることから職員の視点も変わったのではないかと思う。 →産学連携に関しても低く出ているが、次年度同窓会発足を予定としている。</li><li>→昨年の学校関係者評価委員会は、「学校全体の情報共有不足」が課題だった。全体周知を「会議」の運営方法や周知方法を再構築したことで、職員の意識は上がっていると思う。また、教職員の</li></ul>	3

	<p>自己点検項目の認識の統一を行ったので自己点検・自己評価の点数に反映されているように思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、項目の説明を職員に行ったのか。 →項目の説明をしながらグループ単位で自己評価を行った。</li> <li>・業界との関連については、4つの業界団体と連携をとり校内でイベントを実施、また、教育課程編成委員会・実習などで連携した対応を行っている。</li> </ul>	
II. 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人員不足を感じる」という意見が出ているが学校としてはどのように思うのか。 →指定規則は満たしているので人員が足りていないわけではない。「働き方改革」の時間的縛り等でそのように感じていることはあるように思う。</li> <li>・一人当たりの業務量が多いのではないか。 →次年度の対策として効率的な業務分担を予定している。</li> <li>・HPの情報公開にて3つのポリシーの策定をしている。7つの視点と5つの数字を目標に運営をしている。</li> <li>・「理念」は大阪滋慶学園・出雲医療看護専門学校どちらのものなのか。 →グループ校として学園全体の「理念」を共有している。 →表記に関して語弊があるかもしれない。 本校の開設にあたり経緯があり、「理念」は学園として統一であるが、地域性役割などによって「使命」や「役割」を再認識していかななくてはならないと思っている。</li> <li>・学園「理念」に連動しているため学校としての「使命」「役割」と混同があるように思える。また「人事・給与」の評価が低いので上がってくると良い。</li> </ul>	3
III. 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「理念」が低い「理念に沿った教育ができています」が高いと、整合性がないのはなぜか。 →教育指導要綱がすべての教員に配布されており教育の質の担保はできているが運営方針などの説明の周知に問題があるように思える。</li> <li>・授業評価は行われているのか。 →年2回で行われている。</li> </ul>	3

<p>IV. 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育に関して学生の学習成果を示すポートフォリオの導入はされているのか。</li> <li>→現在は導入できてない。</li> </ul>	<p>4</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界から見た卒業生の評価が必要であると思うが、全体的な評価が行われていない。</li> <li>・全卒業生入職施設で行われた評価ではないため、キャリアセンターを通じて今後、全体の調査が必要となる。</li> </ul>	
<p>V. 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れは今後行う予定があるのか。</li> <li>→大阪では行っているが行政などの連携も必要となるので現段階では分からない。</li> <li>・「再教育」などは今後、卒業生だけではなく一般社会人にも学びの場の提供を行っていく予定はあるのか。</li> <li>→一部行っているところもあるが本格的に行うには検討していかなくてはならない。</li> <li>・学生支援の評価の向上と入学生の増加に関しての結びつけはどのように考えているのか。環境向上と学校選びについての考えを知りたい。</li> <li>→環境整備で学生の増加は関係していると考えますが環境だけではなく医療を目指す学生の入学前教育を主として行きたいと思っている。</li> <li>・学生を守る立場から様々な想定をしており、原発事故・自然災害からJRの遅延などの情報は緊急と考えている。現在の緊急連絡網は本部からの発信が行われているので時間的な問題を感じており、本校独自の連絡発信ができないか検討する必要がある。</li> </ul>	<p>3</p>

<p>VI. 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価が下がっている部分もあるが設備などの予算はどのようになっているのか。 →設備予算などは在校生によって左右される。 在校生が多くなれば使用する予算は多くなる。</li> <li>・在校生が少ない学科の予算が少ない場合は悪循環になるのではないか。 →改善意識をしっかりと職員にもってもらい対応してもらっている。</li> <li>・学校全体で行っていくことはないのか。予算の振り分けをすることはしないのか。 →法人のチェックが入る、全校が一律のルールのもと行っている。現場との連携ができていて学科はよくなってきている。</li> <li>・学校は独立採算であり、学科が一部独立採算と考えてよいのでは。</li> <li>・知名度・地域性もあるのかもしれない。</li> </ul>	<p>3</p>
<p>VII. 学生の募集と受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前教育（プレカレッジ）入学時のまとめ試験などを活用して入学後のサポートセンターへ繋げている。</li> </ul>	<p>3</p>
<p>VIII. 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務には学生の募集が大きく関わっている。そのためには広報力の充実が必須になるが、見込みと方法はどのように考えているのか。 →今後は SNS など Web 広報などの利用を考えている。 →学生数に応じた予算執行を考えないといけない。大阪滋慶学園でカバーしているところもある。</li> <li>・実習費の見直しとはどのようなことか。 →地元では実習地が確保できなかつたり、自宅から通えない実習地もあることから出ている。</li> </ul>	<p>3</p>
<p>IX. 法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遵守できていないと学校の存続もできていないので遵守されている。</li> </ul>	<p>4</p>
<p>X. 社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修・海外交流などされていると聞いている。せっかくの取り組みを出雲市の国際交流課と記者クラブなどに伝えればよいのではないか。</li> <li>・今年度は5月に中国からのゲストの受け入れを予定している。</li> </ul>	<p>3</p>

※評価基準

4:できている    3:ほぼできている    2:改善が必要    1:できていない

1) 平成 30 年度学校関係者評価委員会では、全ての大項目について自己点検自己評価結果と同様であった。

2) 改善点として下記の 3 点をまとめた。

(1) 学園の理念に対する学校の理念、目的、使命、役割などが明示されておらず、またそれぞれの位置づけが明確でない。「理念」の評価が低かったのは、そのためと考えられる。あらためて学校の理念、目的等を見直す必要がある。またそれにあわせてディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの見直しも必要ではないか。特に入試制度にあわせた検討が必要である。また検討した理念等は明示し、学校全体で共有できるようにする必要がある。

(2) 学校運営を組織的に進めるために、会議や委員会を設けて進めてきた。同時に情報共有できるよう全体連絡会や学科会議、議事録の回覧や起案による周知等を行ってきた。しかし、一方で会議や委員会の開催が多くなり、また決められたことが計画的に進まないこともあった。そのため大項目Ⅱ（学校運営）に対する点数が低くなったと考えられる。今年度は学校運営の組織改変も行うため、あらためて学校運営の組織、運営方法、業務分掌や、規定の見直し、情報共有の方法などの再検討を行っていく。

(3) 事業計画について、平成 30 年度当初に 5 か年計画と単年度計画は示されたが、一部具体的な目的達成の取り組みができなかった。また振り返りの機会も不十分であった。今年度は事業計画の見える化、および対応策の策定と実施をしていく。